

ことわざ「骨がかゆい」「骨の間にご飯粒が入る」の使用状況調査 ～企画展「さんべホネホネ研究所」開催時のミニアンケートより～

龍 善 暢*

An Investigation on How Proverbs are used in Spoken Language in Shimane Prefecture

Yoshinobu Tatsu

1. はじめに

島根県立三瓶自然館において平成27年7月17日から9月27日まで、企画展「さんべホネホネ研究所」を開催した。本企画展では、様々な生活環境に適応した生物（主には哺乳類）のカラダの仕組みを、骨格標本の展示をとおして楽しく学ぶ機会を提供した。また、企画展の一部には「ホネことば」コーナーを設け、骨に関する慣用句を紹介して骨を身近に感じてもらう雰囲気を作った。

その際、小さな頃「骨がかゆい」とか「ご飯を食べるとすぐに伸びをすると骨の間にご飯粒が入る」といった言葉を聞いたことがある、という情報が寄せられた。

そこで、企画展の来場者を対象に簡単なアンケート調査を実施して、2つの言葉の使われていた地域、年代を調べることにした。

2. 言葉の意味・用例

実際に聞いたことがある人の話より、次のようなニュアンスであると思われる。

(1) 骨がかゆい

①意味

動きたくてうずうずしている様子

②用例

遊びに出たいのに出られなくて、部屋の中を動き回っている子どもに対して

「骨がかいてあばかなかね」（骨がかゆくてどうしようもないかね）

あるいはその様子を見て

「骨がかいてあばかんだわね」（骨がかゆくてどうしようもないんだよ）

(2) 骨の間にご飯粒が入る

①意味

食事の後にすぐに伸びなどをしてはいけないという躰の言葉。

②用例

「ご飯食べた後、すぐに伸びをすると、骨の間にご飯粒が入るで」

3. 調査方法

企画展の「ホネことば」コーナーにおいて、「骨がかゆい」「骨の間にご飯粒が入る」という言葉を紹介し、少し離れた場所にてその使い方をパネルで解説した。

そのパネルの前に調査用紙を設置し、使ったことや聞いたことがあるという情報を集めた。



写真1 「ホネことば」コーナー

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan



写真2 「骨がかゆい」解説パネルとアンケート箱

ホネ方言ミニ調査

「骨がかゆい」「骨の間にご飯粒が入る」などの方言を使っていたあるいは、直接聞いたことがある方へ。
使われていたエリアの調査にご協力願います。

①使っていた（聞いた）地域はどこですか？
_____市・郡 _____町・村

②使っていた（聞いた）のはいつ頃ですか？
大正・昭和・平成 _____年頃

③「骨がかゆい」
 使ったことがある
 言われたことがある
 使っているのを直接聞いたことがある
 直接聞いたことは無い

④「骨の間にご飯粒が入る」
 使ったことがある
 言われたことがある
 使っているのを直接聞いたことがある
 直接聞いたことは無い

⑤聞いたことはあるが、例に示されている使い方とは違っていた。
(使い方を具体的に記入してください)

ありがとうございました。

図1 調査票

4. 結 果

(1) 使用状況

調査の結果は表1のとおりである。一方あるいは両方の言葉を知っている（「使ったことがある」「言われたことがある」「聞いたことがある」のどれかに○をつけた）人が36。うち、「骨がかゆい」を知っている人が33、「骨の間にご飯粒が入る」を知っている人が13、両方知っている人が10であった。

企画展の来場者（大人）約2万5千人に対して、使ったことがある又は聞いたことがあるという割合は約0.14%となる。実際、パネルを見た来場者のほとんどが初めて知ったような反応を示していたので、これらの言葉を知っている者はごく少数であることが推察できる。

ただ、回答者の中の約半数は、平成の時代になっても使ったり聞いたりしており、一部ではあるが現在でも使用されている様子が見えがえる。

(2) 使用地域

2つの言葉とも、出雲弁と関係があるのではないかという予想の下に調査を実施した。結果を地図にプロットしたものが図1である。

子どもの頃に田舎で聞いた人が大人になって都市部等に転居しているなどの不確定要素もあるが、出雲市、松江市、雲南市に集中しているように見受けられる。

5. 考 察

(1) この結果をふまえ、出雲弁に造詣の深い藤岡大拙氏に意見を伺った。

① 骨がかゆい

氏によると、「骨がかゆい」は出雲弁である。しかし、本来の意味は“仕事が大義になること”（牧野辰雄, 2001）で、今回の用例とは異なっている。藤岡氏が子どもの頃は本来の意味で使われていたが、時代と共に用例が変化して現在の使い方になったのであろうというのであった。

② 骨の間にご飯粒が入る

この言葉は出雲弁ではない。ことわざとして、八王子地方など（尚学図書辞書編集部言語研究所, 1982）日本の他地域においても使用例がある。

(2) 今回の調査は回収数が少ないので深く考察することはできないが、以下のような傾向を見ることができ。

① 骨がかゆい

出雲弁として出雲地方を中心に伝承されている。しかし、用例はいつの間にか変化して現在のようになった。

また、出雲弁が若い世代に伝承されにくくなってきている中、現在も使っている人の割合はとても少ない。

② 骨の間にご飯粒が入る

出雲弁ではないが、鳥根、広島圏域では出雲部を中心に使われている。この言葉も現在使っている人はとても少ない。

表1 調査結果一覧

地域	年代	「骨がかゆい」			「骨の間にご飯粒が入る」		
		使ったことがある	言われたことがある	聞いたことがある	使ったことがある	言われたことがある	聞いたことがある
安芸高田市	平成	○	○		○	○	
松江市	昭和50年頃	○				○	
出雲市	平成	○				○	
雲南市	昭和40年頃		○	○		○	
出雲市	平成		○	○		○	○
雲南市	平成		○			○	
出雲市	昭和60年頃		○			○	
出雲市	平成			○			○
浜田市	平成			○			○
出雲市	平成			○			○
出雲市	平成	○	○	○			
松江市	平成	○	○	○			
雲南市	昭和50年頃	○	○	○			
出雲市	平成	○					
出雲市	昭和35年頃	○					
出雲市	昭和50年頃	○					
出雲市	昭和60年頃	○					
出雲市	平成	○	○				
出雲市	昭和60年頃	○	○				
米子市	昭和60年頃	○	○				
出雲市	昭和年代	○		○			
出雲市	昭和30年頃	○		○			
出雲市	平成	○		○			
浜田市	平成	○		○			
出雲市	昭和		○	○			
松江市	平成		○				
松江市			○				
大田市	平成		○				
福山市	平成		○				
大田市	昭和		○				
松江市	平成			○			
出雲市	平成			○			
出雲市	昭和60年頃			○			
江津市	昭和40年頃					○	○
広島市	平成					○	
出雲市	昭和60年頃					○	

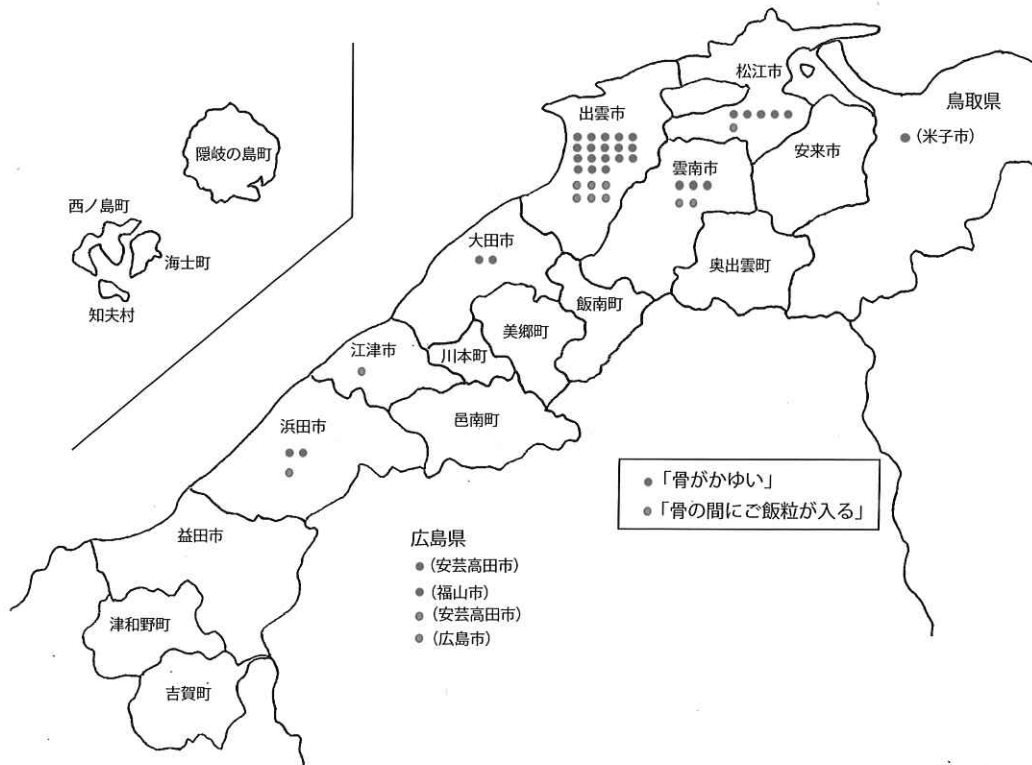


図2 使用者分布図

謝 辞

この調査及び考察については藤岡大拙氏にとっても丁寧なアドバイスをいただいた。ここに厚くお礼申し上げます。

引用文献

- ・牧野辰雄(2001) 出雲のことは早わかり辞典
尚学図書辞書編集部言語研究所(1982) 故事・俗信ことわざ大辞典